



湾岸・アラビア半島地域ニュース

カタール：ハマド・ビン・ジャーシム首相兼外相の発言

(1月17日付現地各紙)

1月16日、ドーハ緊急サミット閉会後の記者会見での発言（要旨のみ）

1. イスラエルとの関係

- (1) カタールは、イスラエルによるガザ攻撃の継続に鑑み、イスラエルとの関係凍結を決定した。
- (2) 情勢が改善されるまで、ドーハにあるイスラエル通商代表部を閉鎖する。カタール政府はイスラエル通商代表部に対して、状況が改善され、和平への機運が高まるまで、同事務所の存在は望まれない旨通告するとともに、同事務所閉鎖及び職員退去のために1週間の猶予を与える。
- (3) イスラエルとの関係凍結は、今回のサミットの結果を受けたものではない。カタール政府は、イスラエルがガザ侵攻を開始してから同代表部の閉鎖を検討していた。イスラエルによる軍事行動の継続並びに軍事行動停止を規定する安保理決議1860号の不履行に鑑み、ハマド主張はイスラエルとの関係凍結の決定を行った。
- (4) カタールは、マドリッド会議で開始された和平プロセスの雰囲気醸成の一環として、イスラエル通商代表部を受け入れた。イスラエルとの関係は幾度もカタールの国益に反することがあった。従って、現在、カタールは正しいと考えることを実行した。カタールと同じ措置を他国に強要するものではない。イスラエルとの関係を維持するか凍結するかはそれぞれの主権による決定事項である。

2. ドーハ・ガザ緊急サミットの意義

- (1) ガザ緊急サミットでは、同サミットの最終声明の内容をクウエイト経済アラブ・サミットに提出することを合意した。ドーハでのサミットは、アラブ諸国民が期待する最低ラインの結果を出した。クウエイト・アラブ・サミットで如何に発展させ得るかである。
- (2) カタールは、ガザ住民のためにアラブの会議の開催を強く求めたもので、アラブ内に亀裂を引き起こすためではない。カタールは武勇伝を求めているのではない。アラブの一員であるカタールは、ガザでの出来事に痛みを感じている。好き嫌いでかかる災禍に対処するべきではない。パレスチナ人民の基本的な人権が最も大切な問題である。

3. ハマスの参加

- (1) アッバース大統領をPA大統領として尊重して、当初からハマスをはじめとするパレスチナ諸派を今回のサミットに招待してはいなかった。
- (2) しかし、アッバース大統領が欠席となったため、パレスチナ諸派に対する招待が不可欠と考えた。パレスチナ問題を協議するサミットを当事者が不在のまま開催

することは不合理である。こうして、パレスチナ人民を代表してパレスチナ抵抗勢力指導者がサミットに参加するよう特別機を送った。

4. カタルと（同サミットに欠席した）サウジ・エジプト両国との関係

- (1) カタルとサウジとの関係は極めて良好である。例え見解の相違があったとしても、友好関係を損ねるものではない。アブドゥラー国王は、我々以上にアラブの利益とパレスチナの問題について考えておられる。サウジはアラブ世界において重要かつ影響力のある役割を担っている。
- (2) エジプトと同国指導者の重要な役割を疑うことはない。エジプトは、アラブ問題のために何度も戦争を行い、多くの犠牲者を出している。見解こそ異なるが、友好を損ねるものではない。
- (3) 尚、ガザでの停戦のためのエジプトによるイニシアティブの実現のためには、イスラエルを含むすべての当事者の間で合意を形成する必要がある。

5. アラブ和平イニシアティブ

- (1) アラブ諸国はアラブ和平イニシアティブにコミットしている。しかし、イスラエル側が応えないまま永遠にコミットすることは出来ない。
- (2) イスラエルがアラブ和平イニシアティブを拒絶することは、これまでの中東和平関連の安保理決議を否定することに等しい。
- (3) アラブ諸国は安保理決議 242 をはじめとする全ての中東和平関連の安保理決議、平和と土地の交換の原則にコミットしているが、イスラエルにとっては安保理決議を履行しないことに利益がある。

6. 国際部隊の派遣

パレスチナ・エジプト国境線への外国部隊展開の問題については、同部隊の任務が監視目的、保護目的、それとも国際部隊の名目の封鎖なのかを慎重に吟味する必要がある。